

県小体研だより

鳥取県小学校体育研究会 令和6年12月発行

自主研修会「やってみた！」紹介

令和4年9月から、夏目貴史・前県小体研理事長を中心に東部で計15回開催されてきた自主研修会。毎回10～20人ほどの教員が、時には他県（島根、徳島など）からの参加者と一緒に、準教科書「わたしたちの体育」を活用して実技研修を行っている。その概要を紹介する。

今後に向けて

- 日々の「より良い授業づくり」を準教科書の活用を通して、この取組を東部地区だけでなく全県に広げていきたい。
- その結果、全国学体連鳥取大会（R9）、次回中・四国大会（R14）に向けて実践を積み重ね、鳥取体育の勢いを継続させたい。

きっかけは

- 体育を得意としていない先生や若い先生と一緒に準教科書の活用を通して、より良い体育授業を考えていきたい。
- 準教科書の活動の意図を知ったり、実際の授業の流れを実技研修したりして、日々の授業にいかしてもらいたい。



研修会の内容や進め方は

- 東部小教研担当領域を中心に内容を決めている。（保健も含めて）
- 中・四国研究大会の県外分科会発表担当領域などの授業作りの中で、事前の実技研修会をしたこともある。
- 準教科書の例示をもとに実際に動いてみて、子どもへの発問や指示、場の設定の仕方や準備物などを、その都度協議しながら広げたり深めたりしながら進めている。

<編集後記>

11月30日（土）、宮ノ下小学校で開催された自主研修会「やってみた！」では、「ゲーム・ボール運動（ゲーム型）」が実技研修内容だった。参加者の「こんな活動だったんですね。」気づきの声。「案外、活動量がある～！」息を弾ませる声。「やってみると難しいなあ。」苦笑いの声。そこから、「自分が授業するとしたら」のつぶやきが始まる。

定期的に、準教科書の2、3の例示を実技研修するこの会で、若い先生方の繋がりが広がっていると感じるのは、私だけではないと思う。

（文責 県小体研顧問 長谷川誠一）